



〈みわの2〉  
西郷吉孝さん



〈やすふみ〉  
黒木松吾さん



〈あけみ112〉  
安楽淳二さん  
〔出品者 鎌田幸美さん〕



〈おび8の49〉  
岩下信也さん



〈倉松秀〉  
鎌田秀利さん



日本一の座を獲得した瞬間。  
嵐のような歓声が巻き起こりました。

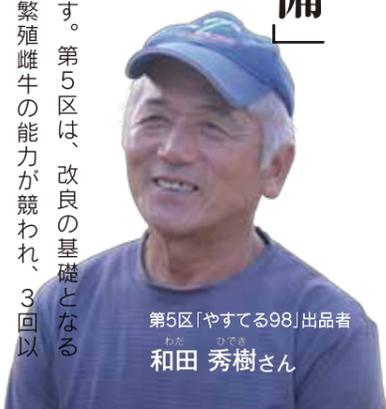


写真提供/宮崎県

9月7日から11日にかけて宮城県仙台市で「第11回全国和牛能力共進会宮城大会(以下、全共)」が開催され、全国各地の和牛が改良の成果やその優秀性を競い合いました。南那珂地区からは宮崎県代表として9頭の牛たちが出場し、第4区は優等賞次席そして骨味賞を受賞。第5区そして第7区では日本一を意味する優等賞首席を獲得しました!!

# 日本一の 称号と感動再び!!

## 「日本一の努力と準備」



第5区「やすてる98」出品者  
和 田 秀 樹 さん



JAはまゆう畜産部  
井 手 幸 彦 さん

県代表という狭き門をくぐり抜け、さらに全ての区において入賞するという快挙を成し遂げた南那珂地区。牛の手入れなど現場の統括役を担ったJAはまゆうの井手さんに今大会について聞きました。

9月3日(日)の夕方に宮崎を出発したチーム南那珂。9頭の牛を4台のトラックに乗せ、関係者と獣医に挑みました。「2時間ごとにサービュエリアに停まり、牛に水分補給をするなどして体調管理を行いました。大きな問題もなく会場まで運ぶことができました」と井手さん。これほどの遠路を問題なく輸送できたのは、チーム宮崎の綿密な対策がありました。大会を前に予行練習として試験場の牛を宮城まで輸送し、獣医立ち会いのもと、どのタイミングで牛に水分補給をすれば良いかなど、血液検査を行いながら計算し調整。「おかげで順調にいきましたね」と井手さんは言います。会場に到着したのは翌日9月4日(月)の18時半。約24時間かけて輸送を終えました。

9月7日(木)に大会は開幕。「中には輸送で体重が20kg減った牛もいましたが、到着後の餌の調整が上手くいったので、牛をとても良い状態に戻せました。これまで通りやってくれたら大丈夫、と確信していました」と井手さんは開幕前の心境を振り返ります。

翌・8日(金)〜10日(日)にかけて各区の審査が行われ、南那珂から出品した4区5区では体型によって優劣が決まり、7区は種牛能力と産肉能力が審査されました。結果は4区が優等次席、5区では優等首席、7区は総合で優等首席を獲得、肉牛群では3位という結果を残しました。「4区は十分に能力があつたからこそ悔しい気持ちがあります。5区は、とみの3のほればれする魅力が首席につながってくれたと思いますね。7区では他県と差をつけることが難しい中、素晴らしい結果になりました。県代表として恥ずかしくない結果を残せて本当に良かったですね。なにより、南那珂の牛の素晴らしさを全国にしっかりと発信できたことが嬉しいですね」。

## 「栄光を振り返る」

「あの感動は言葉にできません。涙が出るほど嬉しかったですね」と日本一を手にした瞬間の心境を話すのは5区出品者の和田秀樹さんです。

第5区の審査が行われた9月9日(土)。前日に4区が首席を獲得できなかったという結果を受けていた和田さんは、3連覇の期待を背負いながら「俺たちが首席を獲得しないから俺たちが首席を獲るしかない」と5区出場者4人で話したそうです。「4区の実力ですら次席なのかと思い、少し不安が頭をよぎりました」と和田さん。

いざ入場が始まると「牛が少し斜めを向いてもいい。とにかくしっかり立たせて綺麗に見せようや」と5区最年長の和田さんは言葉を発し、全員の気持ちを一つに集中させ入場したそうです。会場内に入ると、宮崎の横には強豪・鹿児島県の姿がありました。「こちら側の牛への視線をかなり感じました。ものすごい気迫でしたね」と和田さん。場内では「宮崎の牛は綺麗やね」と観客の声があちらこちらで聞こえていたといいます。

いよいよ1道17県各4頭ずつ出品された牛たちの審査が始まりま

す。第5区は、改良の基礎となる繁殖雌牛の能力が競われ、3回以上出産した雌牛が4頭1組で出品されています。審査は、2回に分けて行われ最終的に5県にまで絞られ、そこから序列が発表されます。

そして発表の瞬間。「優等賞首席宮崎県」

「聞いたことのないほどの歓声がか会場内に響き渡りました」と和田さん。出品者同士でも「やったねー!!」と顔を見合わせ喜んだといえます。「宮崎の強さは牛の実力はもちろんですが、牛を上手に立たせることができる技術力にもあると思います。ロープだけで牛をしっかり立たせることができるのは宮崎ぐらいでしょうね。日頃からの取り組みが結果につながったのだと思います」。

南那珂という小さい市場から日本一の実力を証明した第5区。まさに、チーム宮崎の合言葉「日本一の努力と準備」が功を奏した結果となりました。